

■ SQLServerTask ユーザーズマニュアル

Microsoft 社製のデータベース SQL Server のデータベースを決められたスケジュールにしたがって、まるごとバックアップしたり、SQL Server 間でコピーします。

■ 概要

インストールされたクライアント側 PC で動作し、SQL Server のデータベースを、定期的にもるごとバックアップしたり、コピーします。バックアップの場合、バックアップファイル (.bak) はクライアント側 PC に保存します。

■ 開発環境と動作対象 OS・動作対象 SQL Server

● 開発環境

Windows 7 Home Basic

Microsoft Visual C# 2008、Microsoft Visual Basic 6.0+ServicePack6

● 動作対象 OS

クライアント用 OS

Windows XP Service Pack3

Windows Vista

Windows 7

Windows 8

Windows 8.1

Windows 10

サーバー用 OS

Windows Server 2003

Windows Server 2008

Windows Server 2012

Windows Server 2016

Windows Small Business Server 2003

Windows Small Business Server 2008

Windows Small Business Server 2011

Windows Small Business Server 2012

Windows Small Business Server 2016

● 動作対象 SQL Server

SQL Server 7.0

SQL Server 2000

SQL Server 2005+Service Pack2

SQL Server 2008

SQL Server 2012

SQL Server 2014

SQL Server 2016

Microsoft SQL Server Desktop Engine (MSDE)
Microsoft SQL Server 2000 Desktop Engine (MSDE 2000)
SQL Server 2005 Express Edition
SQL Server 2008 Express
SQL Server 2008 R2 Express
SQL Server 2012 Express
SQL Server 2014 Express
SQL Server 2016 Express

● 必要環境

.NET Framework 3.5

Microsoft Windows Installer 3.1

(Windows XP SP3 以降、Windows Server 2003 SP1 以降)

● 必要な権限

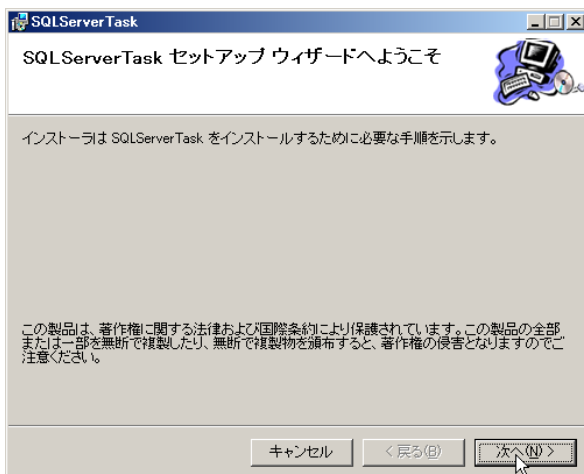
インストールと操作は、管理者権限のあるユーザーで行なってください。

■ インストール

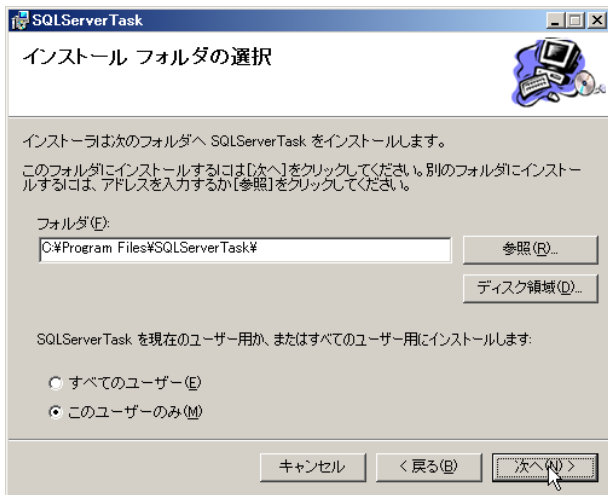
1 SQLServerTask.msi をダブルクリックします。



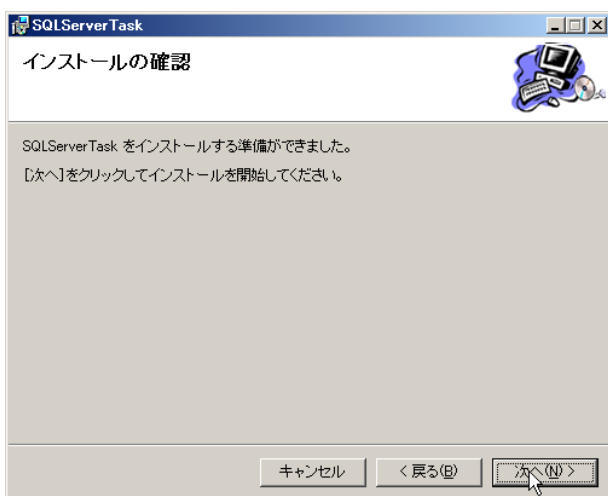
2 「次へ」ボタンをクリックします。



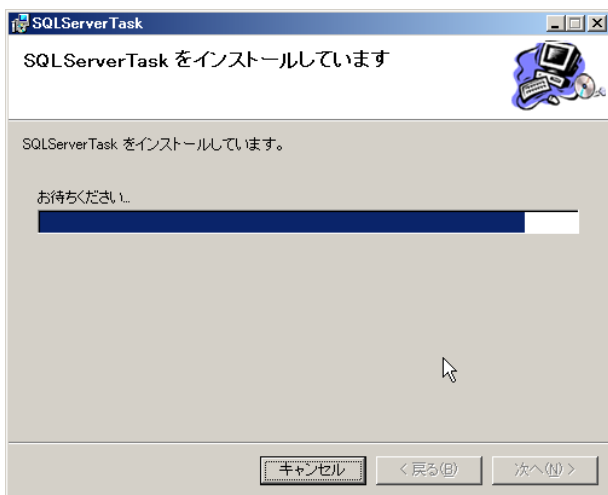
3 インストールするフォルダを選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



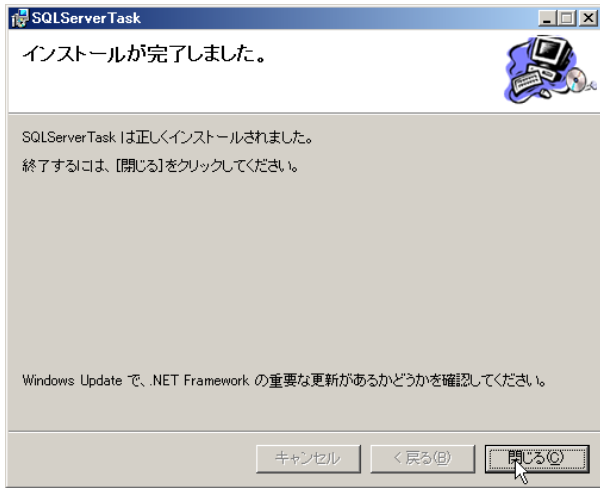
4 「次へ」ボタンをクリックします。



5 インストールが始まります。



6 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。

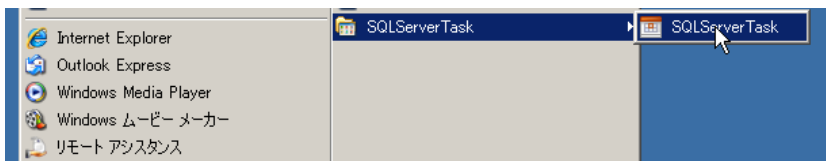


■ 起動する

「SQLServerTask」は、デスクトップに作られる SQLServerTask ショートカットをダブルクリックするか、



スタートメニューー「SQLServerTask」ー「SQLServerTask」から起動してください。



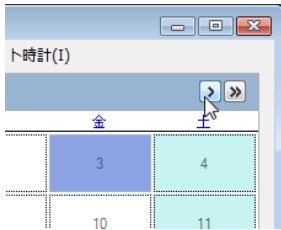
● メインウィンドウ

SQLServerTask が起動したときのウィンドウは次のようになっています。



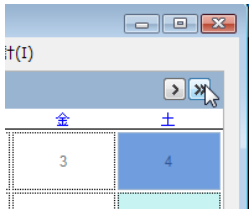
メインウィンドウにはカレンダーが月単位で表示されます。起動したときには、起動したときの月が表示され、起動した日に赤い○印が付いています。

● 「翌月へ」ボタン



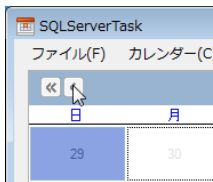
ウィンドウ右端にある「>」ボタンをクリックするとカレンダーが翌月を表示します。

●「翌年へ」ボタン



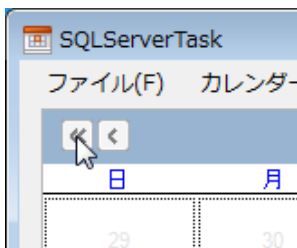
ウィンドウ右端にある「>>」ボタンをクリックするとカレンダーが翌年(1年後)を表示します。

●「前月へ」ボタン



ウィンドウ左端にある「<<」ボタンをクリックするとカレンダーが前月を表示します。

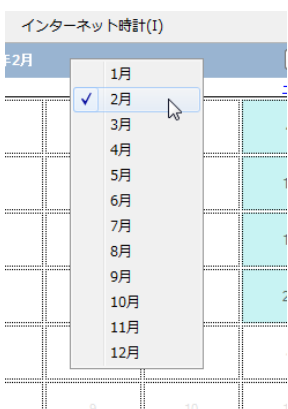
●「前年へ」ボタン



ウィンドウ左端にある「<<」ボタンをクリックするとカレンダーが前年(1年前)を表示します。

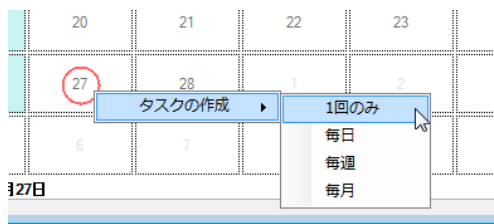
●指定月へ移動

カレンダーのバーの上で右クリックすると1月から12月までが一覧で表示されます。月をクリックすると指定した月に移動します。



■タスクの作成

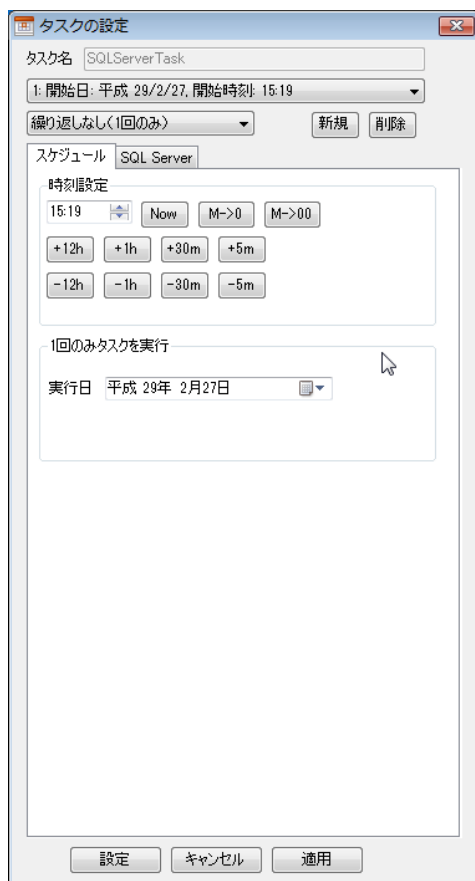
カレンダーの日付欄で右クリックするとメニューが表示されます。



「タスクの作成」のサブメニューの「1回のみ」「毎日」「毎週」「毎月」から選択することができ、それぞれでタスクの設定をすることができます。タスクの設定では、「バックアップ」「コピー」などのタスク、そのタスクを実行する時刻やそのほかの条件を指定することができます。

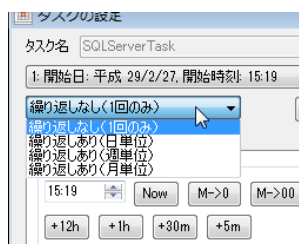
■タスクの設定 スケジュールの指定

スケジュールを指定します。



●タスクの種類

「繰り返しなし(1回のみ)」「繰り返しあり(日単位)」「繰り返しあり(週単位)」「繰り返しあり(月単位)」からクリックして選びます。



●「時刻」欄では、タスクを実行する時刻を設定します。

「Now」 年月日と時刻を現在の年月日と時刻にします。

「+12H」 時刻を 12 時間進めます。

「+1H」 時刻を 1 時間進めます。

「+30m」 時刻を 30 分進めます。

「+5m」 時刻を 5 分進めます。

「-12H」 時刻を 12 時間戻します。

「-1H」 時刻を 1 時間戻します。

「-30m」 時刻を 30 分戻します。

「-5m」 時刻を 5 分戻します。

「M->0」 分の下 1 桁を 0 にします。(例 12 分-->10 分)

「M->00」 分を 00 にします。(例 12 分-->00 分)

(時刻は「0:00」より前には戻せません。また「23:59」より後には進めません。ぐるぐる回りません。)

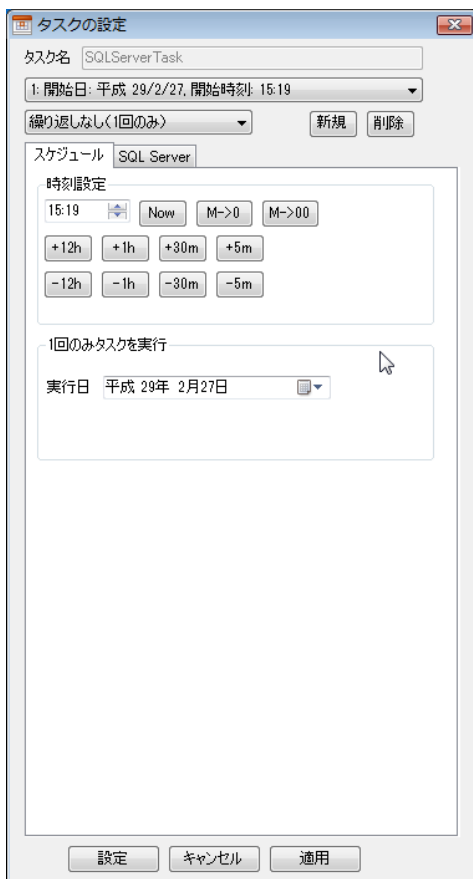
●「設定」ボタンと「適用」ボタン、「キャンセル」ボタン

「設定」ボタンをクリックするとタスクを設定してタスクの設定ダイアログボックスが終了します。

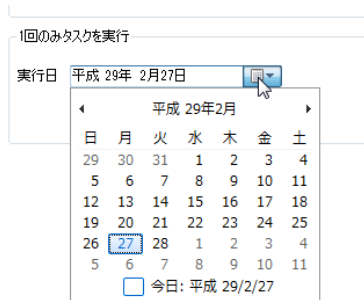
「適用」ボタンをクリックするとタスクを設定します。タスクの設定ダイアログボックスは終了しません。

「キャンセル」ボタンをクリックするとタスクを設定しないで、タスクの設定ダイアログボックスが終了します。

●繰り返しなし(1 回のみ)

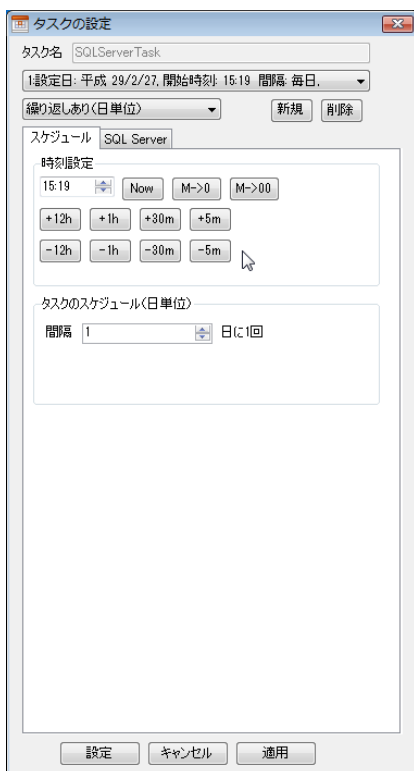


「1 回のみ」を選択していた場合には、「1 回のみタスクを実行」欄で日時を指定することができます。実行日欄の▼をクリックするとミニカレンダーが表示されます。



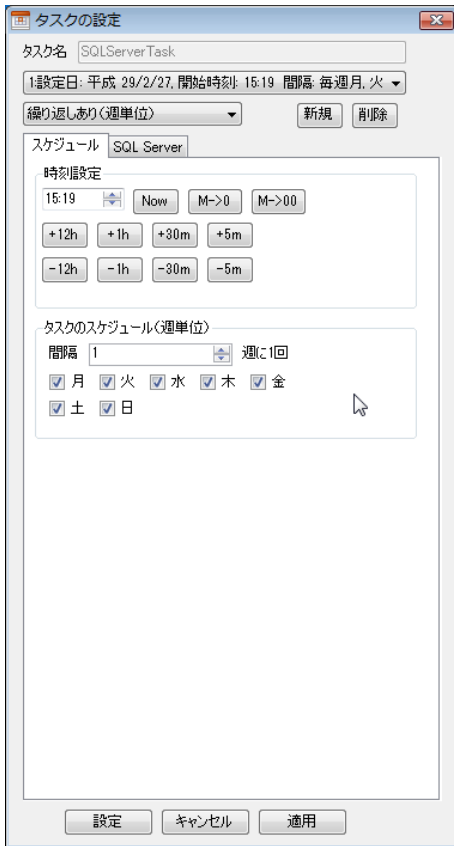
日付をクリックすると「実行日」として指定されます。

●繰り返しあり(日単位)



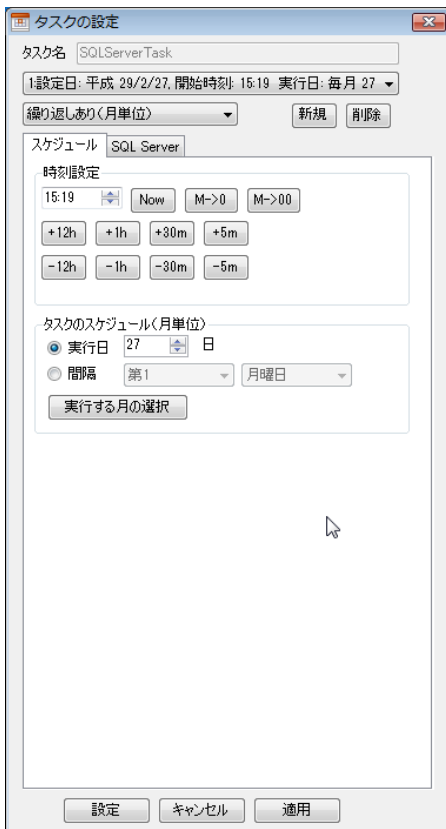
「繰り返しあり(日単位)」を選択していた場合には、「タスクのスケジュール(日単位)」欄で実行する間隔を指定することができます。

●繰り返しあり(週単位)



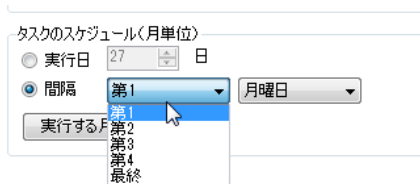
「繰り返しあり(週単位)」を選択していた場合には、「タスクのスケジュール(週単位)」欄で実行する間隔を指定することができます。また実行する曜日を指定することができます。

●繰り返しあり(月単位)

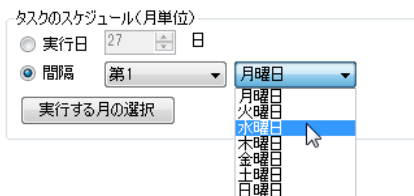


「繰り返しあり(月単位)」を選択していた場合には、「タスクのスケジュール(月単位)」欄で実行する日あるいは実行する間隔を指定することができます。実行する間隔では「第1」から「第4」および「最終」までから選択し、曜日を指定することができます。

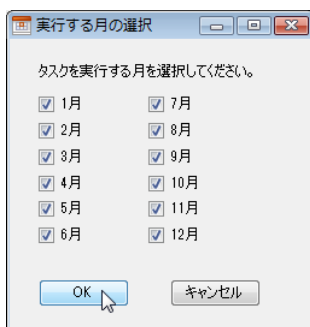
「第1」から「最終」の中から選択



「月曜日」から「日曜日」の中から選択



「実行する月の選択」ボタンをクリックすると次のダイアログボックスが表示されます。



実行する月をクリックして選択し、「OK」ボタンをクリックします。

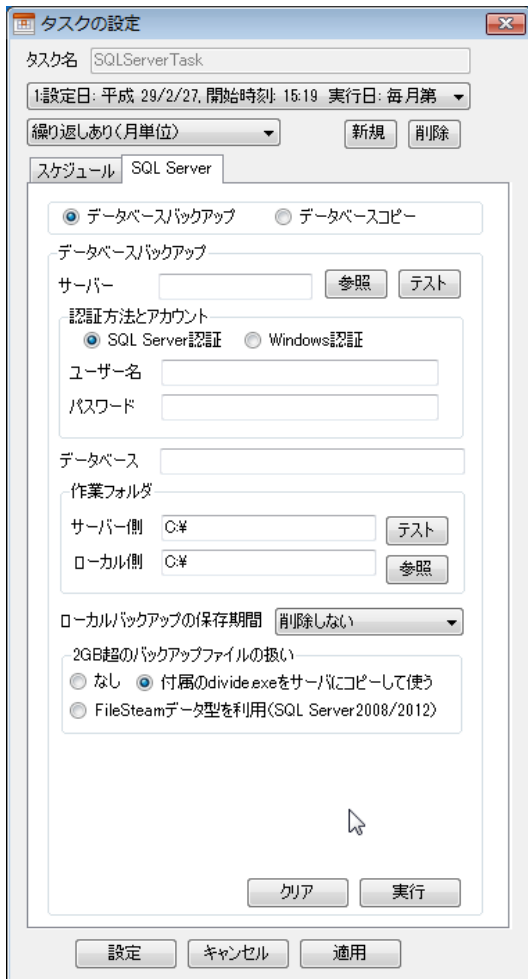
■タスクの設定 SQL Server の指定

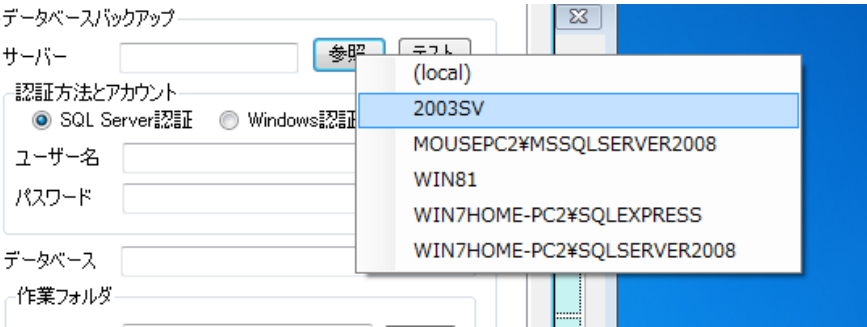

データベースをバックアップするか、コピーするかを指定し、SQL Server に関する情報を指定します。


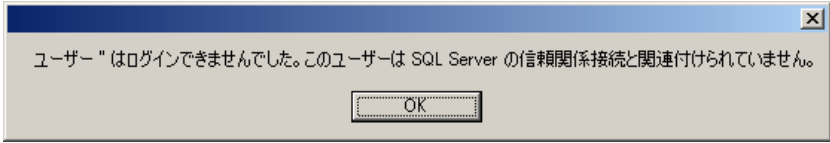
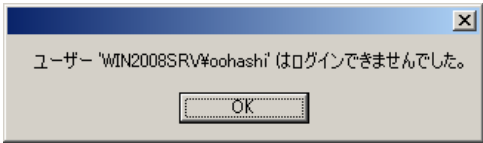
●バックアップかコピーか

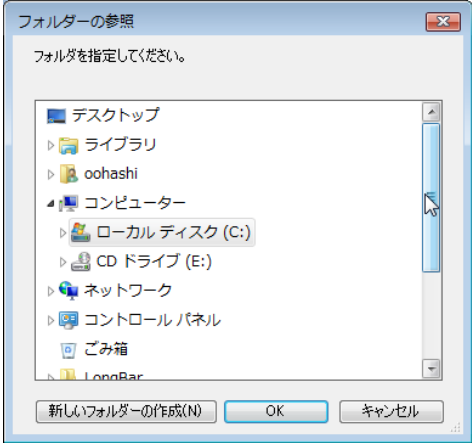
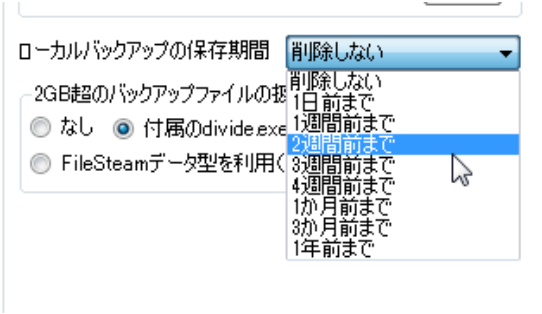
「データベースバックアップ」をチェックするとバックアップの設定になり、「データベースコピー」をチェックするとコピーの設定になります。

●バックアップの設定



サーバー	SQL Server をコンピュータ名 (xxxx¥EXPRESS などのインスタンス名) で指定します。
「参照」ボタン	<p>クリックすると、LAN 内 (同じサブネット内) の SQL Server を検索して、表示します。</p>  <p>一覧から指定したい SQL Server を選んでクリックすると「サーバー」欄に入力されます。</p>
「テスト」ボタン	<p>クリックすると指定した「サーバー名」に指定した認証方法とアカウントを使って、指定したデータベースに接続し、接続できるかどうかテストします。</p> <p>▼指定したサーバーが起動しているか確認してください。</p>  <p>▼指定したアカウントが、指定したデータベースへ接続できる権限を与えられているか確認してください。</p>

	 <p>▼指定したサーバーが Windows 認証で接続できるか確認してください。</p>  <p>ワークグループ構成で Windows 認証を利用した場合、クライアント側のアカウント(ユーザ名とパスワード)と同じものがサーバー側で登録されている必要があります。</p> 
認証方法とアカウント	SQL Server への接続で使用する認証方法を指定します。「SQL Server 認証」の場合には「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
データベース	バックアップ対象となるデータベース名を入力します。複数のデータベースを対象とするときは、「db1,db2,db3」のように「,」(半角カンマ)でつなげます。
「サーバー側」作業フォルダ	<p>サーバー側でバックアップファイルを作るフォルダを指定します。デフォルトは「C:\」になっています。</p> <p>バックアップでは、「BACKUP DATABASE」コマンドによって、SQL Server が稼働しているサーバー内でいったんバックアップファイルが作られます。</p>
「テスト」ボタン	指定した「サーバー側」フォルダに書き込みができるかどうかテストします。(先に「接続テスト」を行なってください)
「ローカル側」作業フォルダ	SQL Server Task を実行しているコンピュータ側でバックアップファイルを保存するフォルダを指定します。デフォルトは「C:\」になっています。
「参照」ボタン	「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されます。SQL Server Task を実行しているコンピュータ内でバックアップファイルを保存するフォルダを指定してください。

	
<p>「ローカルバックアップの保存期間」</p>	<p>バックアップファイルの保存期間を指定します。「削除しない」から「1 日前まで」「1 週間前まで」「2 週間前まで」「3 週間前まで」「4 週間前まで」「1 か月前まで」「3 か月前まで」「1 年前まで」から選ぶことができます。</p> 
<p>「2GB 超のバックアップファイルの扱い」</p>	<p>バックアップファイルが 2GB を超える場合、とくに古いバージョンの SQL Server でどの方法でバックアップファイルを取得するかを指定します。</p> <p>「なし」を選択すると、2GB を超えた場合はなにもしません。「付属の deuide.exe をサーバーにコピーして使う」を選択すると、附属する「deuide.exe」をサーバに転送し、サーバ側で deuide.exe を使って 2GB 超のバックアップファイルをいったん分割し、ローカル側に転送したあとで、附属の「joint.exe」を使って結合します。「FileStream データ型を利用 (SQL Server 2008/2012)」を選択すると FileStream データ型を使用して転送します。FileStream データ型は SQL Server 2008 以降でしか利用できません。</p>
<p>「クリア」ボタン</p>	<p>クリックするとダイアログボックス内の設定をすべて消去します。</p>
<p>「実行」ボタン</p>	<p>クリックすると、設定してある情報で SQL Server のバックアップを実行します。</p>

●データベースコピーの設定

タスクの設定

タスク名 SQLServerTask

1 設定日: 平成 29/2/27, 開始時刻: 15:19 実行日: 毎月第

繰り返しあり(月単位) 新規 削除

スケジュール SQL Server

データベースバックアップ データベースコピー

データベースコピー

コピー元サーバー 参照 テスト

認証方法とアカウント

SQL Server 認証 Windows 認証

ユーザー名

パスワード

データベース

作業フォルダ C:* テスト

ローカル作業フォルダ C:* 参照

コピー先サーバー 参照 テスト

認証方法とアカウント

SQL Server 認証 Windows 認証

ユーザー名

パスワード

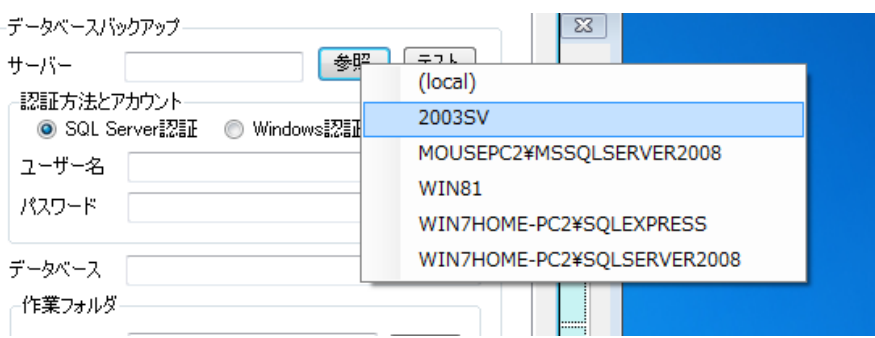

データベース


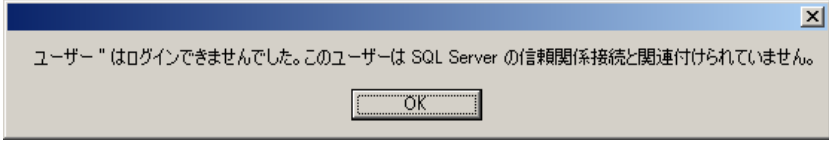
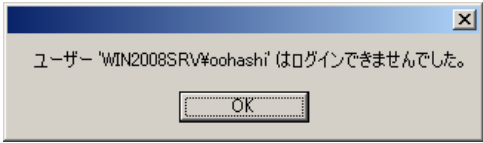
元の名前+年月日+時分秒

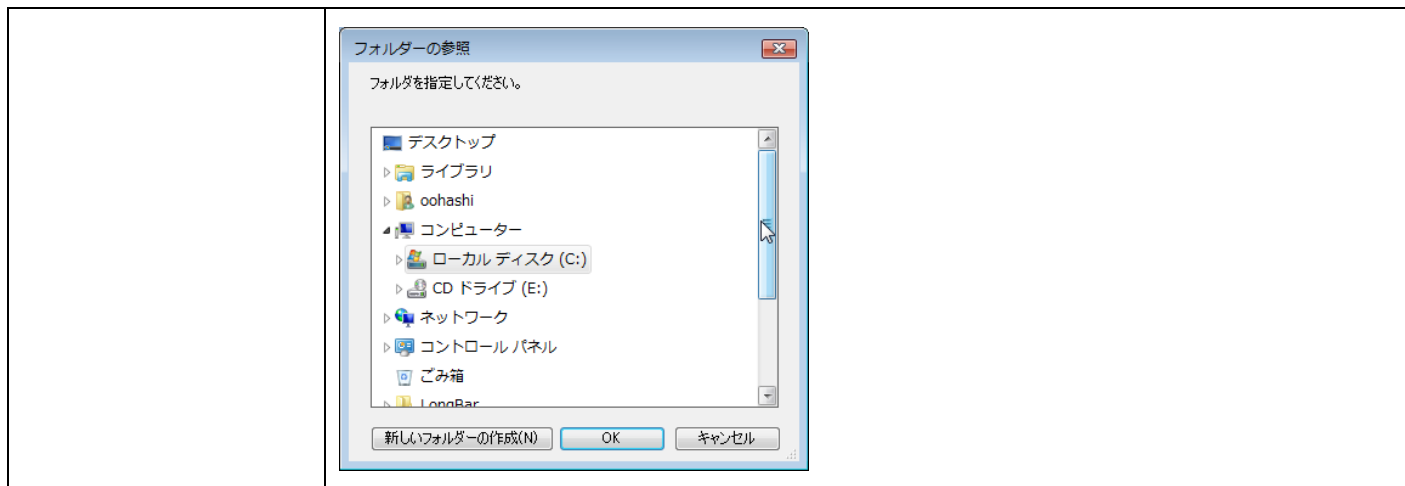
作業フォルダ C:* テスト

クリア 実行

設定 キャンセル 適用

コピー元サーバー	SQL Server をコンピュータ名 (xxxx¥EXPRESS などのインスタンス名) で指定します。
「参照」ボタン	<p>クリックすると、LAN 内 (同じサブネット内) の SQL Server を検索して、表示します。</p>  <p>一覧から指定したい SQL Server を選んでクリックすると「コピー元サーバー」欄に入力されます。</p>
「テスト」ボタン	<p>クリックすると指定した「コピー元サーバー」に指定した認証方法とアカウントを使って、指定したデータベースに接続し、接続できるかどうかテストします。</p> <p>▼指定したサーバーが起動しているか確認してください。</p>  <p>▼指定したアカウントが、指定したデータベースへ接続できる権限を与えられているか確認してく</p>

	<p>ださい。</p>  <p>▼指定したサーバーが Windows 認証で接続できるか確認してください。</p>  <p>ワークグループ構成で Windows 認証を利用した場合、クライアント側のアカウント(ユーザ名とパスワード)と同じものがサーバー側で登録されている必要があります。</p> 
認証方法とアカウント	SQL Server への接続で使用する認証方法を指定します。「SQL Server 認証」の場合には「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
データベース	コピー対象となるデータベース名を入力します。複数のデータベースを対象とするときは、「db1,db2,db3」のように「,」(半角カンマ)でつなげます。
作業フォルダ	<p>コピー元サーバー側でバックアップファイルを作るフォルダを指定します。デフォルトは「C:¥」になっています。</p> <p>コピーでは、「BACKUP DATABASE」コマンドによって、SQL Server が稼働しているサーバー内でいったんバックアップファイルが作られます。</p>
「テスト」ボタン	指定した「作業フォルダ」に書き込みができるかどうかテストします。(先に「接続テスト」を行なってください)
ローカル作業フォルダ	SQL Server Task を実行しているコンピュータ側でバックアップファイルを保存するフォルダを指定します。デフォルトは「C:¥」になっています。
「参照」ボタン	「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されます。SQL Server Task を実行しているコンピュータ内でバックアップファイルを保存するフォルダを指定してください。



コピー先サーバー SQL Server をコンピュータ名 (xxxx¥EXPRESS などのインスタンス名) で指定します。

「参照」ボタン クリックすると、LAN 内 (同じサブネット内) の SQL Server を検索して、表示します。

データベースバックアップ
 サーバー
 認証方法とアカウント
 SQL Server 認証 Windows 認証
 ユーザー名
 パスワード
 データベース
 作業フォルダ

一覧から指定したい SQL Server を選んでクリックすると「コピー先サーバー」欄に入力されます。

「テスト」ボタン クリックすると指定した「コピー先サーバー」に指定した認証方法とアカウントを使って、指定したデータベースに接続し、接続できるかどうかテストします。

▼指定したサーバーが起動しているか確認してください。



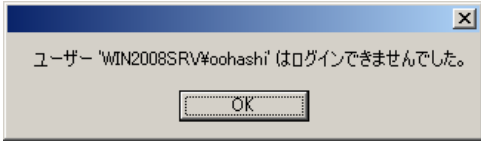
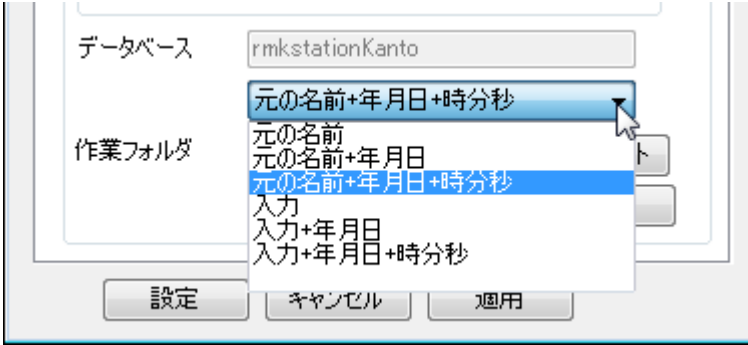
▼指定したアカウントが、指定したデータベースへ接続できる権限を与えられているか確認してください。



▼指定したサーバーが Windows 認証で接続できるか確認してください。



ワークグループ構成で Windows 認証を利用した場合、クライアント側のアカウント(ユーザ名とパスワード)と同じものがサーバー側で登録されている必要があります。

	
認証方法とアカウント	SQL Server への接続で使用する認証方法を指定します。「SQL Server 認証」の場合には「ユーザー名」と「パスワード」を入力します。
データベース	<p>コピー先のデータベース名を指定します。</p>  <p>データベースの「元の名前」か、「元の名前」に年月日（時分秒）などを付けた名前にしたり、「別の名前」を入力し、その名前に年月日（時分秒）などを付けた名前にすることができます。</p>
作業フォルダ	コピー先サーバー側でバックアップファイルを転送するフォルダを指定します。デフォルトは「C:¥」になっています。
「テスト」ボタン	指定したコピー先サーバー側作業フォルダに書き込みができるかどうかテストします。（先に「接続テスト」を行なってください）
「クリア」ボタン	クリックするとダイアログボックス内の設定をすべて消去します。
「実行」ボタン	クリックすると、設定してある情報で SQL Server のコピーを実行します。

■カレンダーに表示されるアイコン

タスクを設定するとカレンダーにアイコンが表示されます。



「1回のみ」のタスクを設定すると「1」と表示されたアイコンが左上に表示されます。

「毎日」のタスクを設定すると「D」と表示されたアイコンが右上に表示されます。

「毎週」のタスクを設定すると「W」と表示されたアイコンが左下に表示されます。

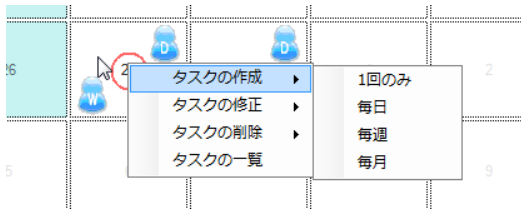
「毎月」のタスクを設定すると「M」と表示されたアイコンが右下に表示されます。



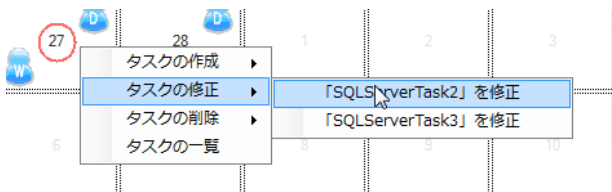
同じ種類のタスクが複数ある場合、アイコンは複数人のアイコンで表示されます。

■タスクの修正と削除

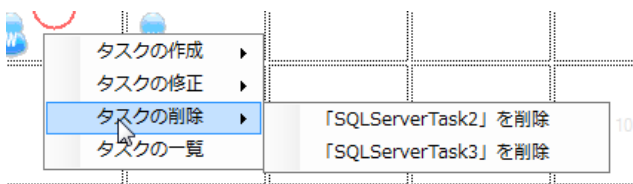
すでにタスクが設定してある場合には、右クリックメニューに「タスクの修正」「タスクの削除」「タスクの一覧」があります。



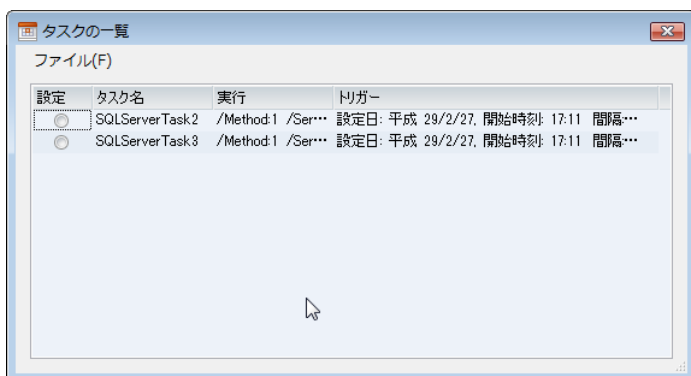
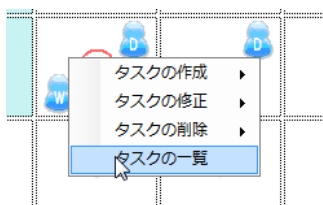
「タスクの修正」にはサブメニューがあり、その日付が該当するタスクが表示されます。タスクを選ぶとタスクの設定ダイアログボックスが表示されます。



「タスクの削除」にもサブメニューがあり、その日付が該当するタスクが表示されます。タスクを選ぶとタスクが削除されます。

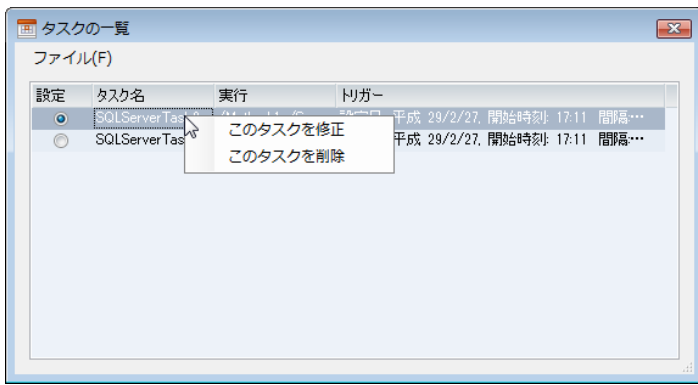


「タスクの一覧」を選ぶと、その日付が該当するタスクが一覧で表示されます。



■タスクの一覧

タスクの一覧では、タスクの上で右クリックするとメニューが表示されます。



「このタスクを修正」を選ぶとタスクの設定ダイアログボックスが表示されます。

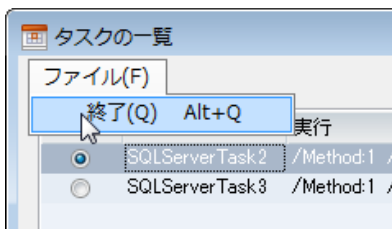
「このタスクを削除」を選ぶとタスクが削除されます。

[注意]

一覧はトリガーごとに表示されますが、修正や削除はタスク単位で行なわれます。「タスクの削除」を実行した場合、同じタスク名のものすべてが削除されます。また「タスクの修正」を実行した場合、タスクの設定ダイアログボックスが表示されますから、修正するトリガーを選択して修正してください。

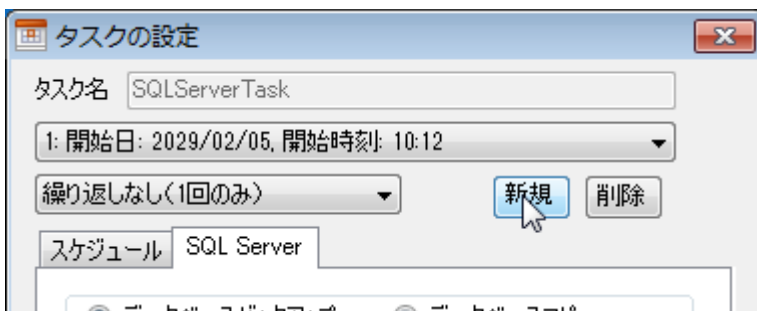
●タスクの一覧の終了

「ファイル」メニューから「終了」を選ぶか、Alt キーを押しながら Q キーを押すと、タスクの一覧ダイアログボックスが終了します。

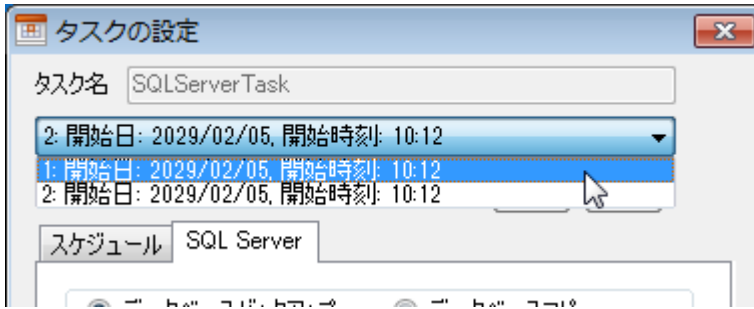


■トリガーの追加と削除

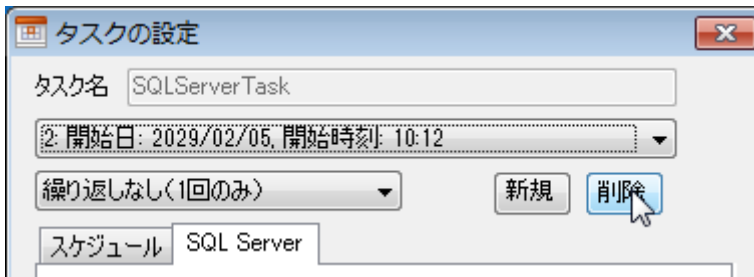
1 つのタスクには、複数のトリガーを設定することができます。トリガーを追加するには「新規」ボタンをクリックします。現在設定されているトリガーと同じ内容でトリガーが追加されますから、修正してください。



複数のトリガーが設定されている場合には、プルダウンメニューから選択してください。



トリガーを削除するには「削除」ボタンをクリックします。



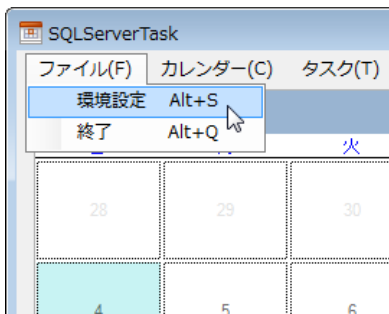
1 つのタスクにはかならず 1 つのトリガーを指定しなければなりません。またトリガーごとにタスクを割り当てることはできません。

■メニュー

メインウィンドウにはファイルメニュー、カレンダーメニュー、タスクメニュー、即実行メニューがあります。

●ファイルメニュー

「環境設定」を選ぶと環境設定ダイアログボックスが表示されます。

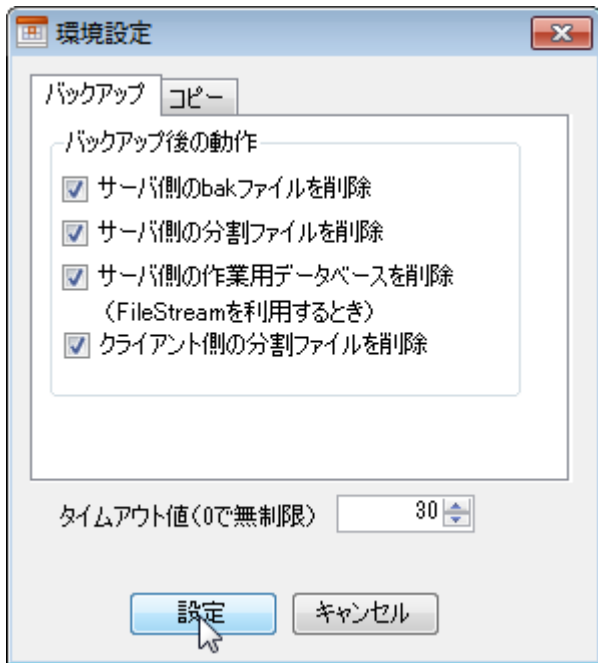


「タイムアウト値」は、秒単位で指定でき、0 を指定すると無制限となりますが、データベースサーバーの動作を不安定にする可能性がありますから、0 を指定することはできるだけ避けたほうが良いでしょう。

SQL Server Task は作業途中でさまざまなファイルを作成します。作業途中で作成されたファイルはすべて削除しますが、うまく動作しないときなどに、作業ファイルを削除しないようにすることで、どのステップで障害が発生しているかをある程度調べることができます。

▼環境設定ダイアログボックスの「バックアップ」タブ

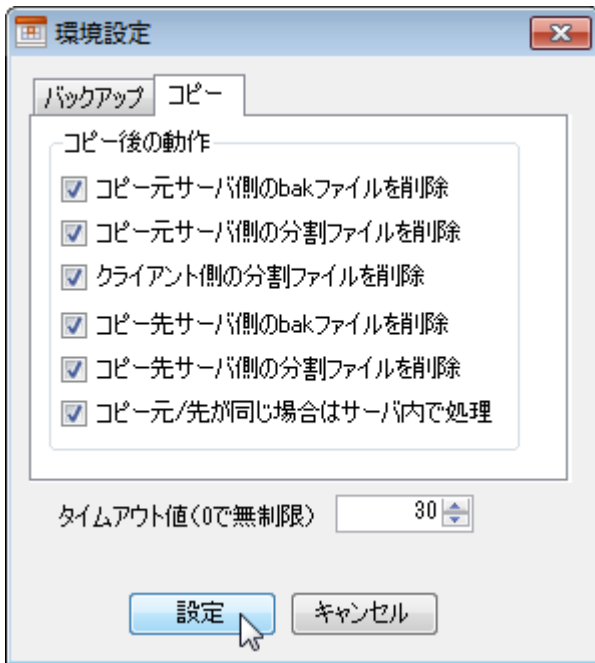
バックアップでは、サーバ側でバックアップファイル(bak)を作成してからクライアント側に転送します。バックアップファイルの容量が大きい場合は、いったんファイルを分割し、分割したファイルを 1 つずつクライアントに転送し、クライアント側で分割されたファイルを結合します。分割には「devide.exe」を、結合には「joint.exe」を使います。



サーバ側の bak ファイルを削除	バックアップでは、まず対象サーバ側でバックアップファイル (bak) を作成します。作業後、bak ファイルを削除するかどうかを指定します。
サーバ側の分割ファイルを削除	バックアップファイルの容量が大きいとき、分割してクライアントに転送するようになっています。分割したファイルを削除するかどうかを指定します。
サーバ側の作業用データベースを削除 (FileStream を利用するとき)	FileStream を利用するとき、作業用データベースを作成しますが、その作業用データベースを削除するかどうか指定します。
クライアント側の分割ファイルを削除	バックアップファイルの容量が大きいとき、分割してクライアントに転送しますが、転送後の分割したファイルを削除するかどうかを指定します。

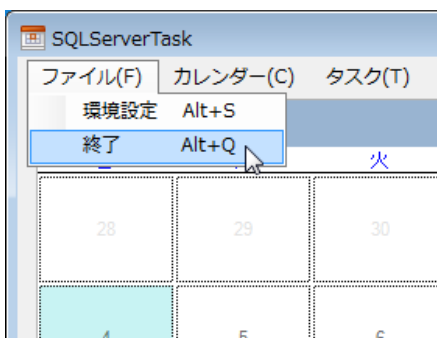
▼環境設定ダイアログボックスの「コピー」タブ

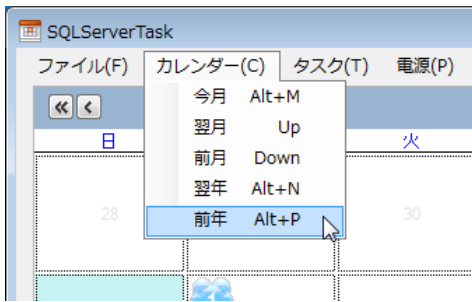
コピーでは、コピー元サーバ側でバックアップファイル (bak) を作成してからクライアント側に転送します。バックアップファイルの容量が大きい場合は、いったんファイルを分割し、分割したファイルを1つずつクライアントに転送します。転送が終わったら、1つずつコピー先のサーバにファイルを転送し、コピー先サーバ側で分割されたファイルを結合します。分割には「devide.exe」を、結合には「joint.exe」を使います。



コピー元サーバ側の bak ファイルを削除	コピーでは、まずコピー元サーバ側でバックアップファイル (bak)を作成します。作業後、bak ファイルを削除するかどうかを指定します。
コピー元サーバ側の分割ファイルを削除	バックアップファイルの容量が大きいとき、分割してクライアントに転送するようになっています。コピー先サーバ側の分割ファイルを削除するかどうかを指定します。
クライアント側の分割ファイルを削除	バックアップファイルの容量が大きいとき、分割してクライアントに転送しますが、クライアント側の分割ファイルを削除するかどうかを指定します。
コピー先サーバ側の bak ファイルを削除	コピー先サーバに転送された bak ファイルを削除するかどうかを指定します。
コピー先サーバ側の分割ファイルを削除	バックアップファイルの容量が大きいとき、分割してクライアントに転送し、それをさらにコピー先サーバに転送します。コピー先に転送した分割ファイルを削除するかどうかを指定します。
コピー元/先が同じ場合はサーバ内で処理	コピー元とコピー先が同じ場合に、クライアントを経由しないで動作するようにします。

ファイルメニューの「終了」を選ぶと SQL Server Task を終了します。Alt キーを押しながら Q キーを押しても終了します。





「今月」を選ぶとカレンダーの月が現在の月に移動します。Alt キーを押しながら M キーを押しても同様です。

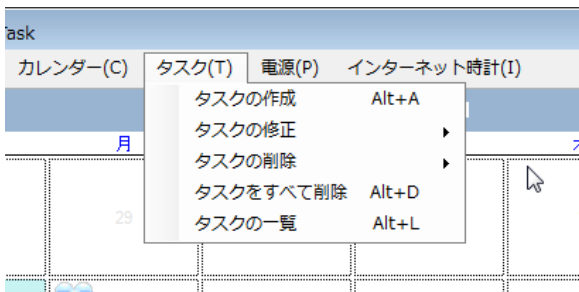
「翌月」を選ぶとカレンダーの月が次の月に移動します。PageUp キーを押しても同様です。

「前月」を選ぶとカレンダーの月が前の月に移動します。PageDown キーを押しても同様です。

「翌年」を選ぶとカレンダーの月が 1 年後に移動します。Alt キーを押しながら N キーを押しても同様です。

「前年」を選ぶとカレンダーの月が 1 年前に移動します。Alt キーを押しながら P キーを押しても同様です。

●タスクメニュー

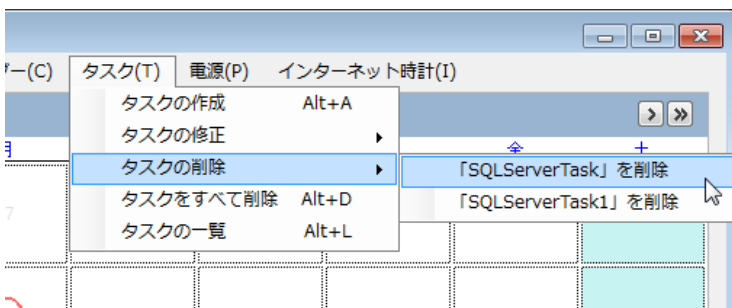


「タスクの作成」を選ぶとタスクの設定ダイアログボックスが表示されます。Alt キーを押しながら A キーを押しても同様です。

「タスクをすべて削除」を選ぶと設定されている SQL Server Task のタスクがすべて削除されます。Alt キーを押しながら D キーを押しても同様です。

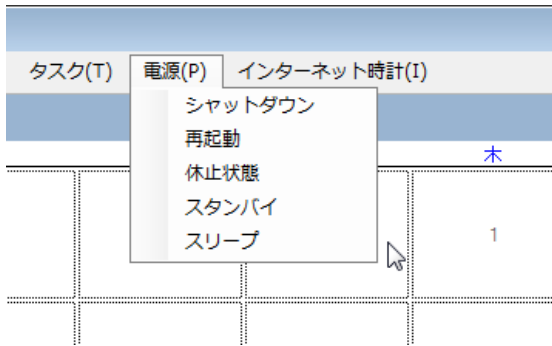
「タスクの一覧」を選ぶとタスクの一覧ダイアログボックスが表示され、設定されているすべての ShutDownTask のタスクが一覧で表示されます。Alt キーを押しながら L キーを押しても同様です。

「タスクの修正」と「タスクの削除」では、サブメニューに設定されているすべての SQL Server Task のタスクが一覧で表示されます。



修正するあるいは削除するタスクを選択してください。

●電源メニュー



このメニューから選ぶと「シャットダウン」「再起動」「休止状態」「スタンバイ」「スリープ」が、すぐに実行します。
(電源メニュー内の項目には、誤ったキー操作を避けるため、キーボードショートカットは用意してありません。)

サーバーを急に停止・再起動しなければならないときに、Windows を通常の操作でシャットダウン・再起動しようとする、

- 1 更新があった場合には「更新をインストールしてシャットダウン」が選ばれているため(デフォルト)、「シャットダウン」あるいは「再起動」を選ばなければならない。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする理由」で、「ハードウェアメンテナンス(計画済)」などオプションで理由を選ばなければ「OK」ボタンがクリックできない。

という問題があります。急な停電などでシャットダウンしなければならないとき、「更新をインストールしてシャットダウン」のままシャットダウンすると、更新が始まってしまい、UPS からの電源供給が間に合わない場合もあります。

このメニューから実行すると、そういった操作が不要になり、すみやかにシャットダウンすることができます。

▼シャットダウン

Windows Update の更新があっても更新しないで、アプリケーションはそれぞれ強制的に終了して Windows をシャットダウンします。

Windows Server 2003/Windows Server 2008 でシャットダウンする場合、その理由を入力するようになっていますが、入力することなくシャットダウンします。

▼再起動

Windows Update の更新があっても更新しないで、アプリケーションはそれぞれ強制的に終了して Windows をシャットダウンしてから起動します(再起動)。

Windows Server 2003/Windows Server 2008 でシャットダウンする場合、その理由を入力するようになっていますが、入力することなくシャットダウンします。

▼休止状態

休止状態にします

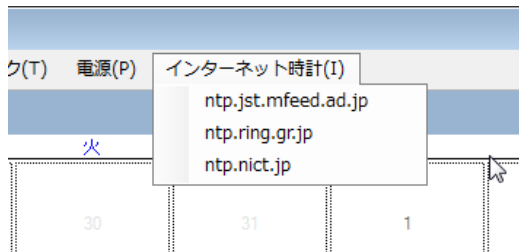
▼スタンバイ

スタンバイ状態にします

▼スリープ

スリープ状態にします

●インターネット時計メニュー



指定した NTP サーバーに接続して、操作しているパソコンの時計を合わせます。

■アンインストール

コントロールパネルの「プログラムと機能」(Windows Vista/Windows 7/Windows Server 2008 の場合)からアンインストールしてください。

SQL Server Taskをアンインストールしても、設定したタスクは削除されません。SQL Server Taskの「タスクをすべて削除」を実行してからアンインストールしてください。

■その他

●実行する場合は

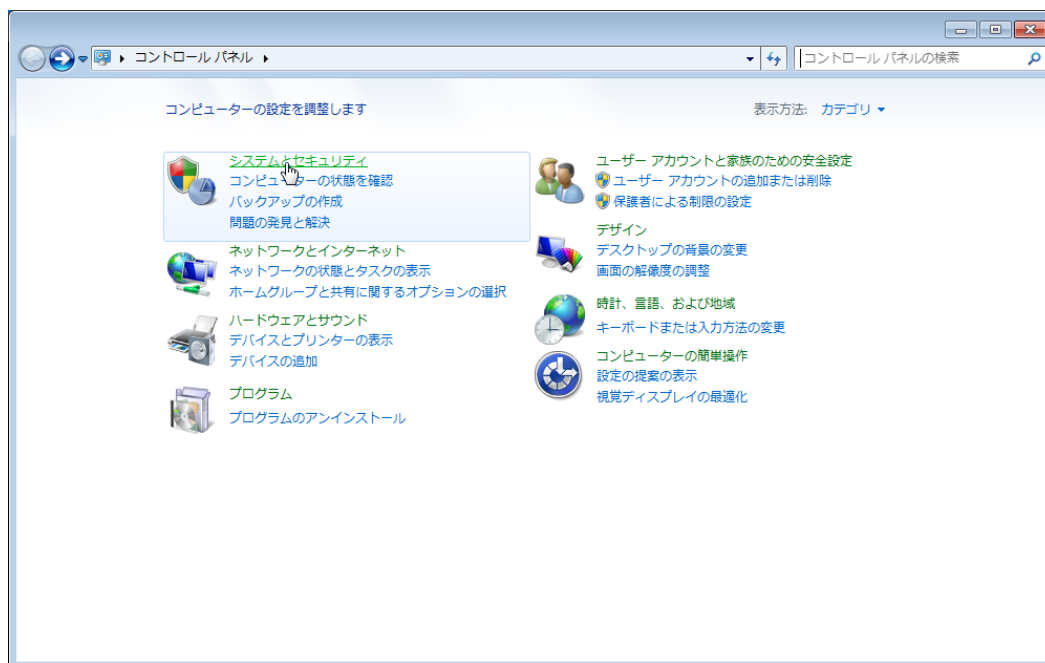
実行する場合には、あらかじめじゅうぶんなテストを行なってください。

本ソフトウェアの利用に関して不具合などが発生しても補償はできません。

●タスクスケジューラについて

SQL Server Task では Windows のタスクスケジューラ機能を利用しています。タスクスケジューラは、Windows XP ではコントロールパネルータスクから、Windows Vista ではコントロールパネルー管理ツールータスクスケジューラから、Windows 7 ではコントロールパネルーシステムとセキュリティータスクのスケジュールから設定します。

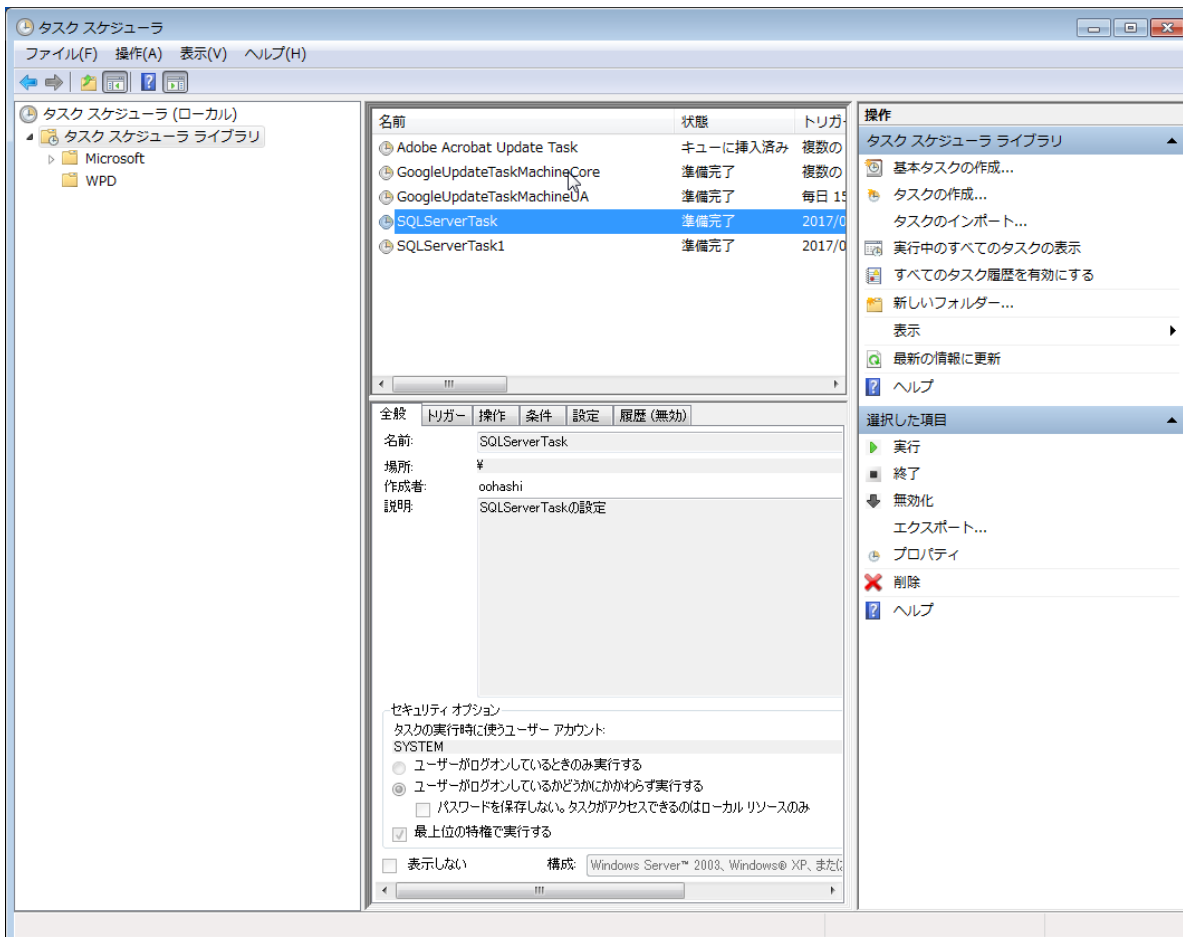
Windows 7 のコントロールパネルから「システムとセキュリティ」をクリックする。



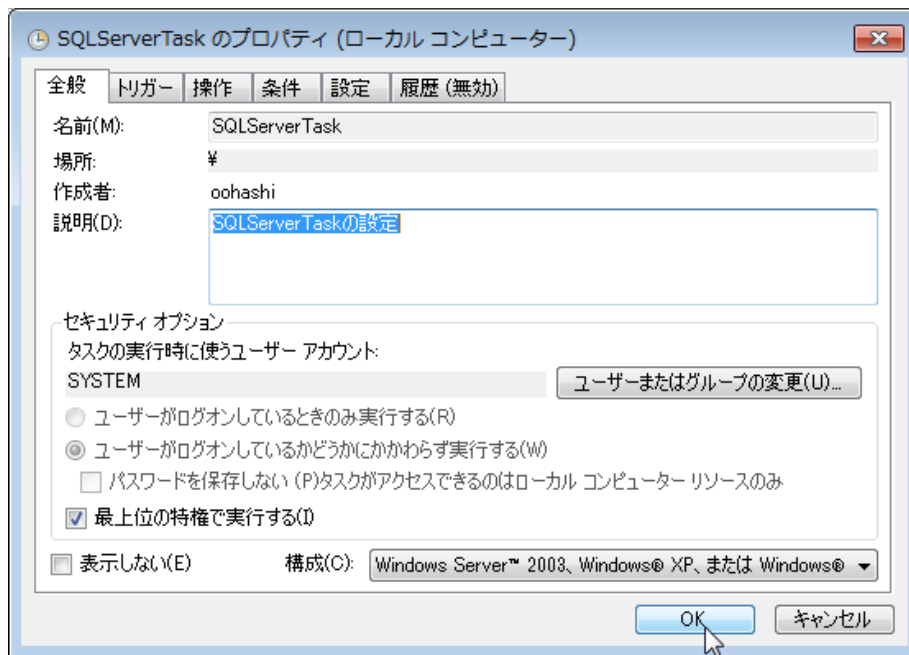
「タスクのスケジュール」をクリックする。



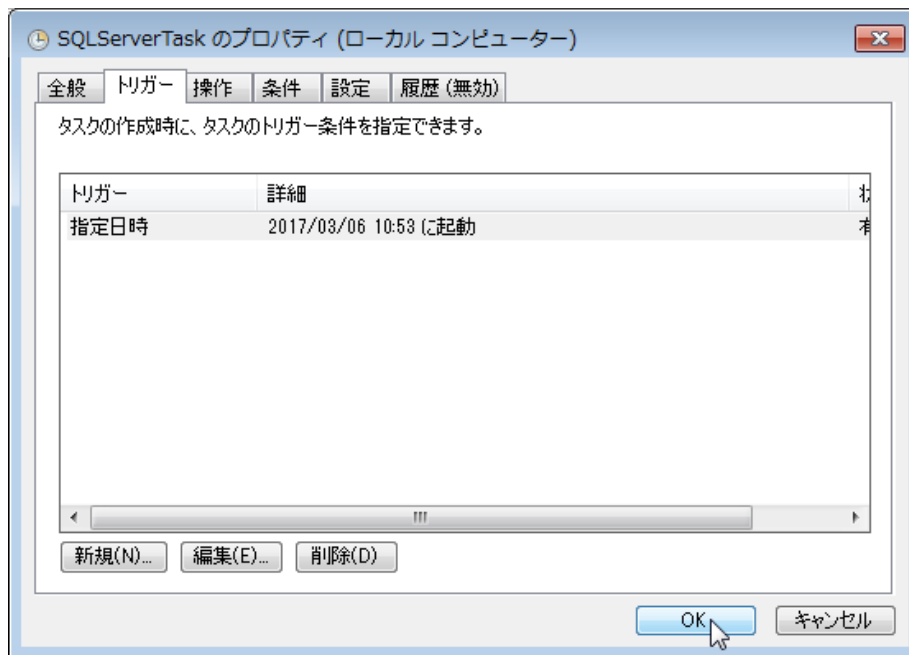
タスクスケジューラライブラリの名前欄が「SQL Server Task」で始まるものが SQLServerTask が設定したタスクです。



タスクの「全般」タブ

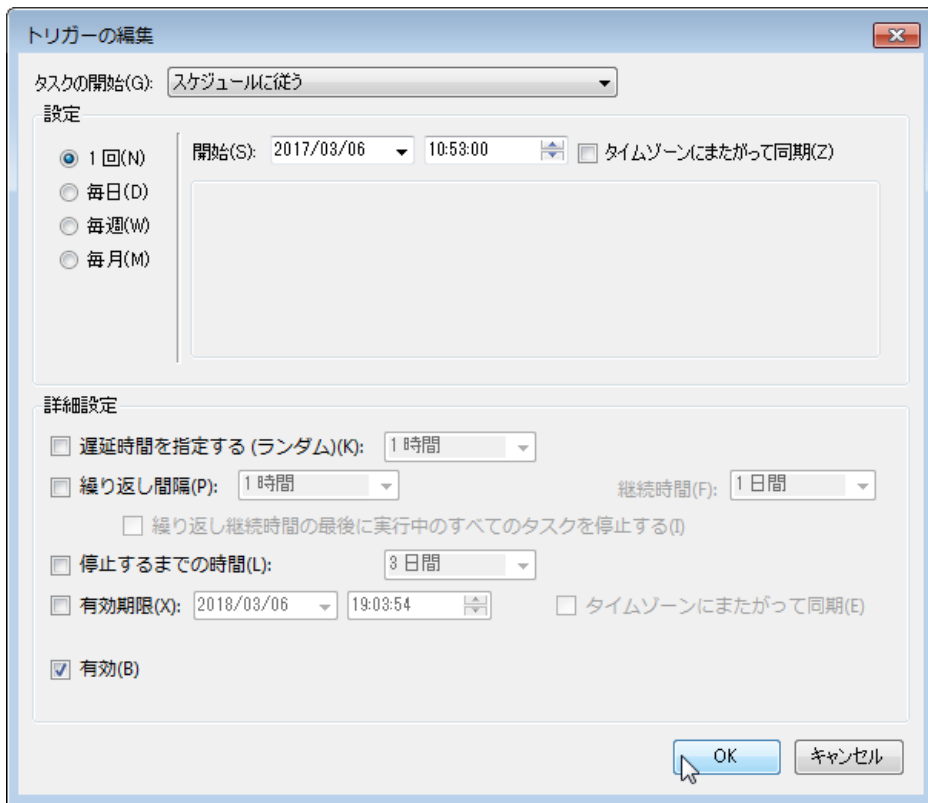


タスクの「トリガー」タブ

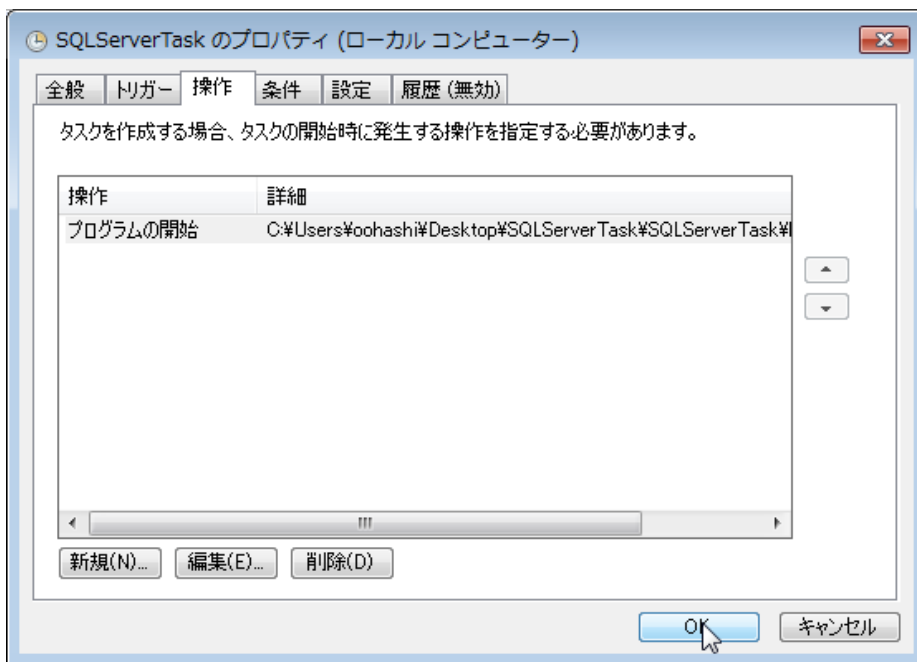


トリガータブではトリガーをダブルクリックするか、選択してから「編集」ボタンをクリックすると「トリガーの編集」ダイアログボックスが表示される。

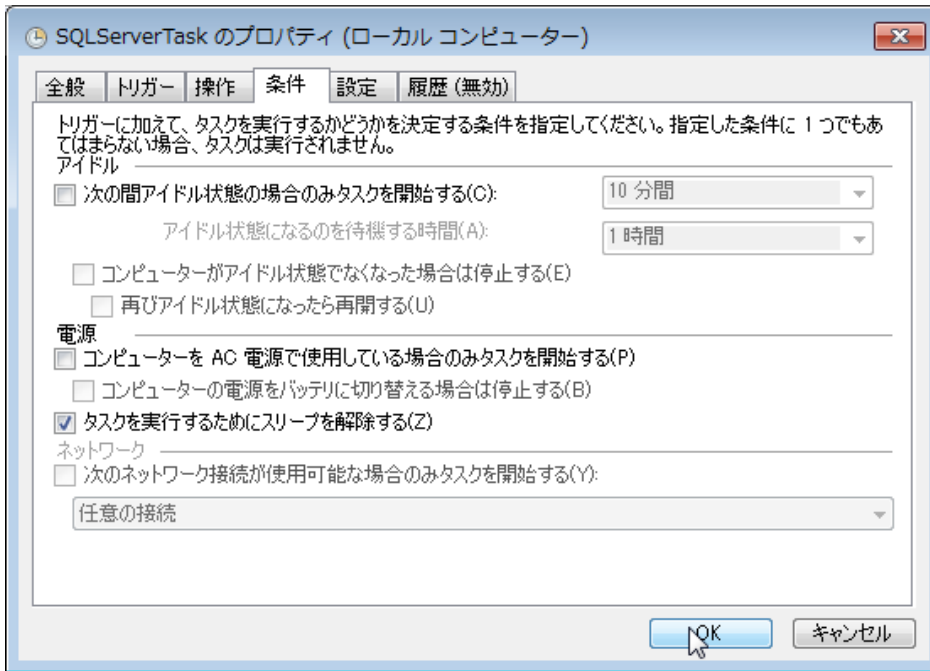
一時的に無効にする場合には「有効」のチェックボックスを外してから「OK」ボタンをクリックします。



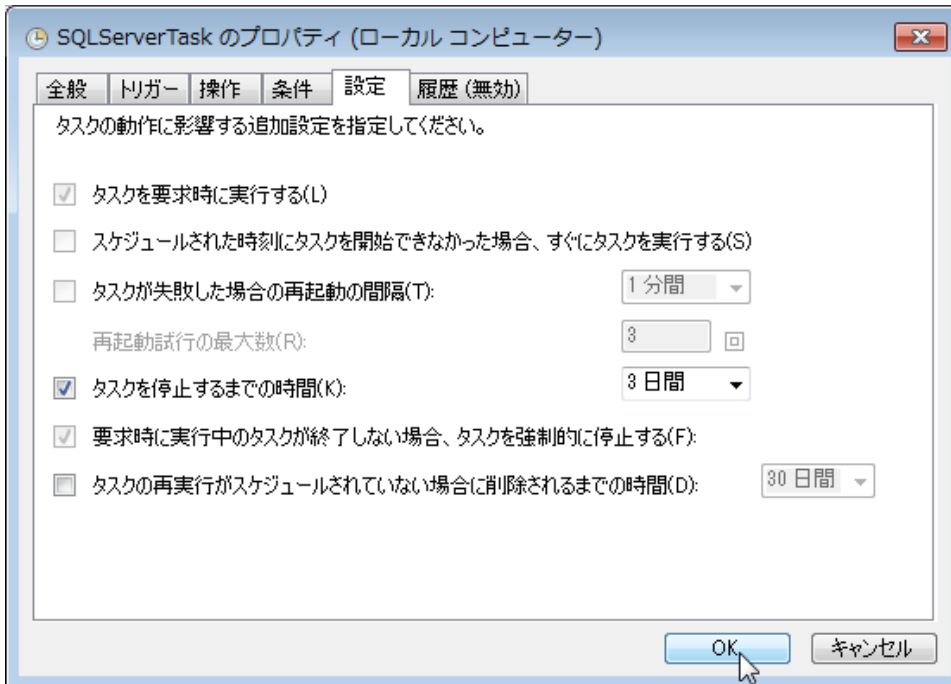
タスクの「操作」タブ



タスクの「条件」タブ

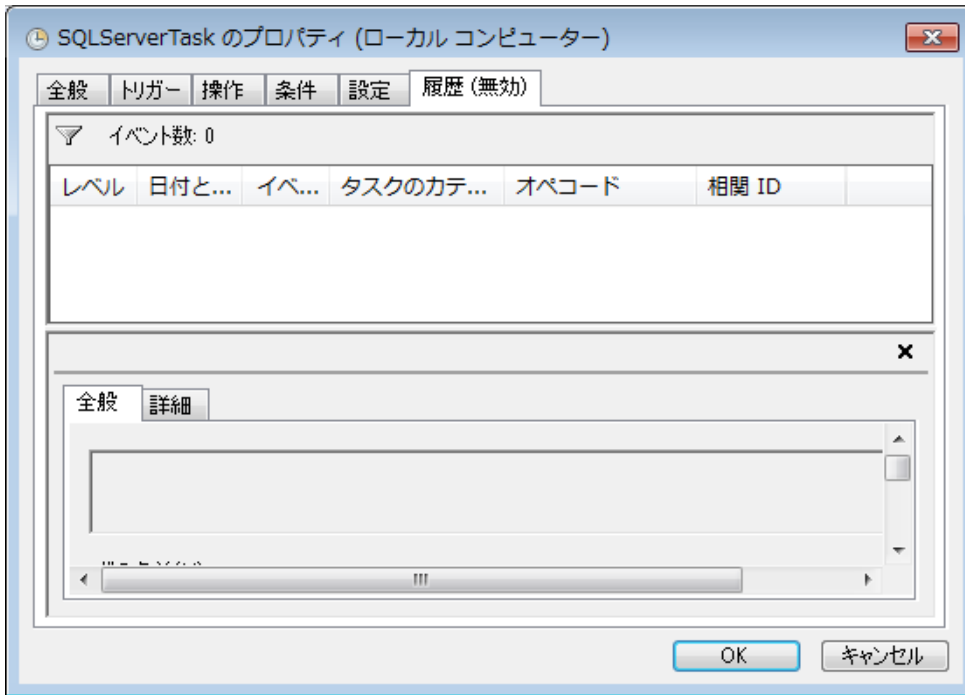


タスクの「設定」タブ

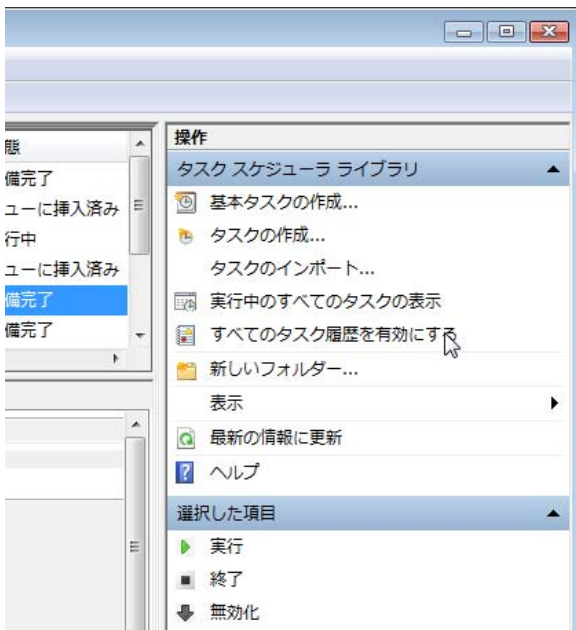


タスクの「履歴」タブ

正常に動作しない場合、ここに記録されたログを調べると解決のヒントが見つかるかもしれません。



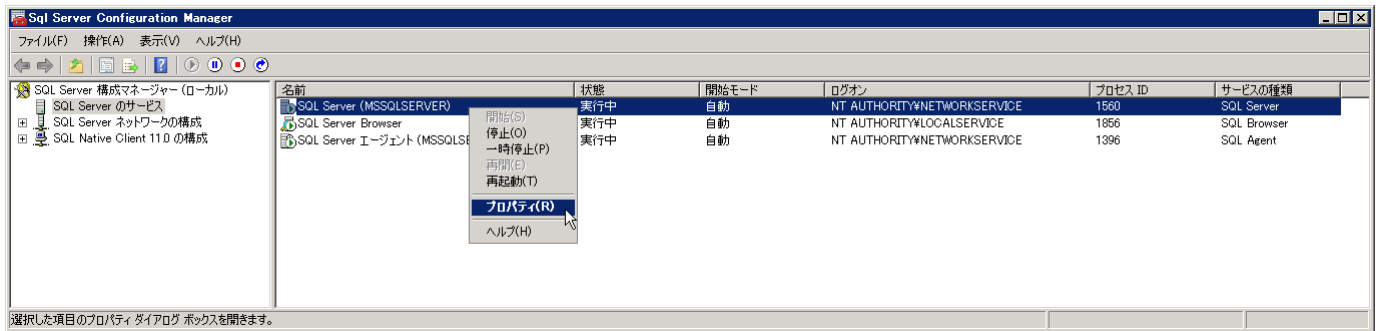
「履歴」が無効になっていた場合には、右側の操作で「すべてのタスク履歴を有効にする」をクリックすると有効にすることができます。



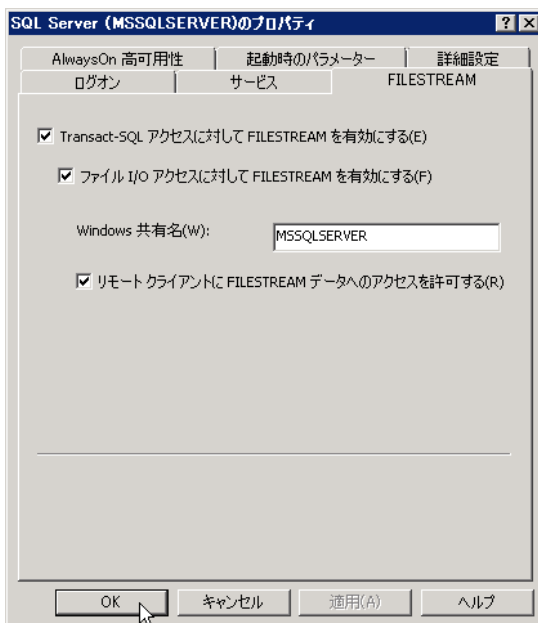
■ FileStream 機能について

SQL Server 2008/2012 から FileStream 機能が追加されました。FileStream 機能を利用することで、SQL Server 内に作られた 2GB 超のバックアップファイルを、SQL Server 内のデータベースに(分割することなく)まるごと格納して、クライアント側に転送することができます。

FileStream 機能を利用するには、SQL Server の SQL Server 構成マネージャ (SQL Server Configuration Manager) で、「SQL Server のサービス」-「SQL Server」をダブルクリックするか、右クリックメニューのプロパティをクリックします。



プロパティ画面で「FileStream」タブの「Transact-SQL アクセスに対して FILESTREAM を有効にする」「ファイル I/O に対して FILESTREAM を有効にする」「リモートクライアントに FILESTREAM データへのアクセスを許可する」の 3 か所をチェックします。



注意

- SQL Server 2008 (Enterprise) で、バックアップファイルが 4GB 超になった場合、4GB を超えた分しか FileStream 機能で取り込まれず、その結果、4GB を超えた分しかクライアントに保存されない現象を確認しています。